

特集「日本の美しい色風景」 Special Issue: Beautiful Colorscape in Japan

“日本の美しい色風景” サイトの制作と活用

Site Construction and Future Works of “Beautiful COLORSCAPE in Japan”

川澄 未来子 名城大学
Mikiko KAWASUMI Meijo University

1. はじめに

「心に残る色風景を共有しよう。」というメッセージで始まる“日本の美しい色風景”サイトを、2021年6月より日本色彩学会公式サイトに置いている(図1)。本稿では、このサイトの背景にある、“日本の美しい色風景”プロジェクトの動機やねらい、サイトの機能と使い方、今後の展開イメージについて紹介する。

2. プロジェクト開始の動機と経緯

“日本の美しい色風景”プロジェクトは、人が感じる「美」を集めて共有する活動である。きっかけは、美しくない景観の問題点を指摘しあう場面に居合わせた数人が、「そもそも美しい景観に正解はあるのか?」「目指すべきゴールは一つなのか?」という素朴な疑問を抱いたことに始まる。ネガティブな指摘や議論は気が滅入る。まずは見本になる「美」の多様な実例を集めて可視化し、どう美しいか、なぜ美しいかの方に向き合う、つまり原点に立ち返ってみることになった。

景観の専門家の方々からは、何を今さら?とお叱り

を受けそうである。ただ、このプロジェクトの対象や定義は、思いきって拡張した。まず色風景の対象は、景観に限らず、モノやコト(祭事や生活)、過去の記憶まで広げた。“美しい色風景”の定義は、単純な視覚的な色彩バランスにとどまらず、音、香り、手触り、温もり、佇まい、思い出などが重なり合った総合的な体験とした。そして、後世に伝えたい“美しい色風景”を、色彩学の見識をもった日本色彩学会の正会員からノミネートしてもらう方式とした。つまり、学会員が研究対象としている、環境、景観、建築、製品、伝統工芸、食、服飾、コスメ、芸術、広告、言語、教育、歴史など、広い分野にまたがる。日本色彩学会の12の研究会の枠を超える、横断的かつ学際的なプロジェクトである。そして、この活動によって、日本や日本人がもつ豊かな風土・伝統・テクノロジーなどを再認識し、未来のモノづくり、マチづくり、ヒトづくりに繋げることを目標とする。そんな壮大な計画の活動を、コロナ禍の2020年夏にスタートさせた。

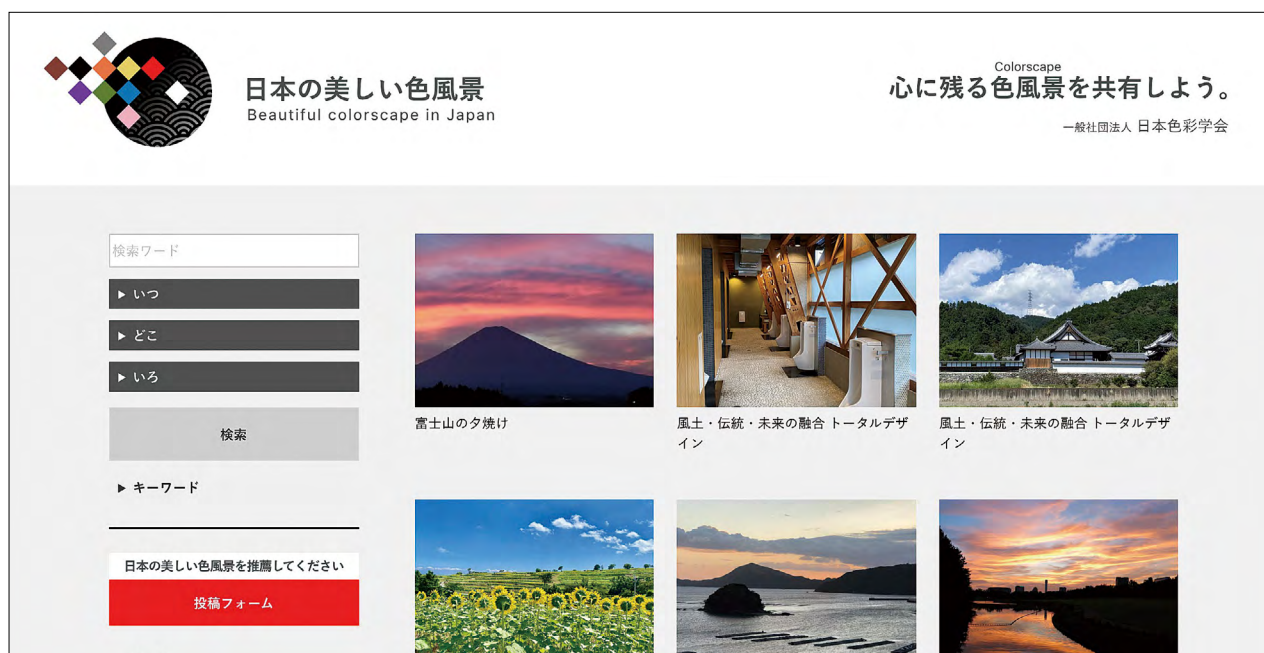


図1 “日本の美しい色風景”サイトのトップページ(学会員のみアクセス可) <https://color-science.jp/colorscape/>

3. プロジェクトとサイトのねらい

美しさを神経生理学の立場から扱う研究¹⁻³⁾では、絵画や幾何学図形などの視覚芸術を題材とすることが多かったが、本プロジェクトでは実生活の中の色風景を対象とする。実景の場合、文脈によって美しさが変わるからややこしい。中南米での美しい色風景を、日本の地方都市にそのまま適用しても美しくない。オフィス街の美しさを住宅街に持ち込んでも違和感がある。夏は美しいが冬は美しく感じないケース、その逆もある。物理的に網膜に映る情報が同一でも、それを覆っている季節や時間、地域や場所、眺める人がもつ経験や感性によって、正解が変わることがある。そして、美の質的なカテゴリも多様である。整頓された美しさ、清潔な美しさ、組合せバランスの美しさ、伝統的な美しさ、ハッとする美しさ、穏やかな美しさなど視点はさまざまである。ノミネートされた理由はなんだろうか。着眼ポイントはどこだろうか。「美」の中身や理由を言語化して共有することが重要である。

“日本の美しい色風景”サイトで集めているのは、色の視点から捉えた「美」の心象風景である。イメージ画像に加え、解説文や主要な色彩（主観的な情報）、時期や場所（客観的な情報）も提出してもらっている。これにより“美しい色風景”をとりまく文脈やその価値に関する情報もまとめてストックし、利用する。

図2にデータの一例として、鋳起銅器の色風景を示す。データ項目数は9つある（表1）。推薦者は、文字情報の入力、月・都道府県・色彩などの選択入力、画像のアップロードによりデータを提出する。主要な色彩は、推薦者が感じる主観情報である。Berlin & Kay (1969) による11の基本の色彩語（赤、黄、緑、青、茶、紫、ピンク、オレンジ、グレー、白、黒）⁴⁾から複数を選択でき、また、他の色名も自由に入力できる。図2のケースでは推薦者が基本の色彩語ではない「銅色」を入力している。なお、写真画像は客観的な物理情報である一方で、それを切り取った撮影者（推薦者）の意図が含まれる点で主観的な情報ともいえる。キーワードは、Instagramのハッシュタグのように、推薦者の感覚で自在に決めて入力し、システム側ではタグ（ラベル）としてデータ検索に利用することを想定している。

心に残る風景を集めた過去の活動としては、環境省による音風景（1996）や香り風景（2011）がある⁵⁻⁶⁾。また、日本で最も美しい村（2005）、The most beautiful villages of the world（世界で最も美しい村）⁷⁻⁸⁾も有名である。しかし、フォトジェニックさの競い合いを超



燕三条の鋳起銅器のやかん

その色風景の詳しい説明

燕三条の清徳堂が手がける鋳起銅器のやかん。江戸時代から続く、1枚の銅板を鋳で打ち延ばしたり絞ったりして形作る製法の伝統工芸品である。一点ずつ職人が手作りで仕上げる。持ち手には、新潟の特産品のアケビが巻かれている。

あなたが「美しい」と感じる理由や思い出

コロナ禍で外出を控えていた後、久しぶりにデパートに行った時に通りがかりに出会い、一目惚れして購入しました。この清徳堂は、90歳くらいのご主人を最後に跡継ぎがいなくなり、もう今ある物しか手に入らなくなるそうです。このやかんでお湯を沸かすと、溢れるお茶やコーヒーも、冷めた水も美味い（気のせいかな？）。20年ほど前、これと同じ外装色のイタリア車Lancia Yに乗っていたことがあり、コッパダークという色名だったことも思い出しました。

その色風景に出会える時期

いつでも

その色風景に出会える場所

新潟県
新潟県燕三条市

主要な色彩

その他（銅色）

推薦者

川澄未来子

キーワード

やかん、燕三条、鋳起銅器

図2 “日本の美しい色風景”推薦データの例

表1 推薦データの項目と属性

No.	推薦データ	情報種別
1	美しい色風景のタイトル	主観/客観
2	その色風景の詳しい説明	主観/客観
3	あなたが美しいと感じる理由や思い出	主観
4	その色風景に出会える時期（1月、2月…、いつでも）	客観
5	その色風景に出会える場所（北海道、岩手県…、どこでも）	客観
6	主要な色彩（赤、黄、緑、青…：基本12色）	主観
7	参考になる写真画像	主観/客観
8	投稿者（本名/ペンネーム/匿名）	-
9	キーワード（5つまで）	主観

えた“美しい色風景”に注目した活動は、世界でもまだ例がない。

4. サイトの機能と使い方

“日本の美しい色風景”サイトは、2020年11月にプロトタイプを制作して試運転を始め、2021年6月に日本色彩学会のオフィシャルサイト下に移設し、現在、トップページにバナーを置いている。誰でもプロジェクトの概要は読めるが、サイトアクセスにはパスワードが必要で、現在は学会員に限定している。

図3に示すように、サイトは大きく3つの機能：①投稿、②閲覧、③検索から成る。

①投稿は、サイト内のフォームから、前章の9項目を提出できるしくみだ。スマートフォンからも投稿できる。投稿データは一旦、仮のデータベースに蓄積される。

②閲覧は、サムネール一覧表示(図1)と、個々の推薦データの表示(図2)の2種類のテンプレートがある。現在は約330のデータが閲覧できる。投稿されたデータは、自動的にアップロードされるわけではなく、管理者がデータ不備などを確認した後に手動でアップロードするしくみにしている。

③検索には、【いつ】検索、【どこ】検索、【いろ】検索、キーワード検索、フリーワード検索がある。推薦者が提出したタグ(ラベル)情報を利用して、合致するデータを並べて表示する。図4に示すように、「2月」のみ、「愛知県」のみ、「緑」のみの一覧表示、あるいはそれらの複合検索が可能である。【いろ】は推薦者が心で感じる主要色なので、一覧表示された物理的な色合いと異なる場合もある。画像全体に占める色彩面積もそれぞれであり、時には画像にその色彩がわずかしき含まれていないこともある。

将来的には、4つ目の機能として投票を加えることも検討している。「いいね」のような一般投票の方式や、審査委員会で評価した結果を表彰・公開する形など、検討していく予定である。また、投稿ガイドやサイトポリシーなどは、画像の二次利用などの権利の問題を含め、今後さらに整備を進める。

最後に、サイト上部に表示させているロゴ(図5)について紹介する。このロゴマークをデザインしたのは、学会員の多田真奈美さんである。“日本の美しい色風景”プロジェクトの活動理念、および「日本らしさ」と「美しさ」が端的に表現されたデザインを依頼した。色風景の対象を狭く限定しない意図から、具象的なモチーフ(例えば富士山など)ではなく、抽象的で普遍的なモチーフを使うようお願いした。ロゴにも基本の色彩語に対応する11色が使用されている。11色には

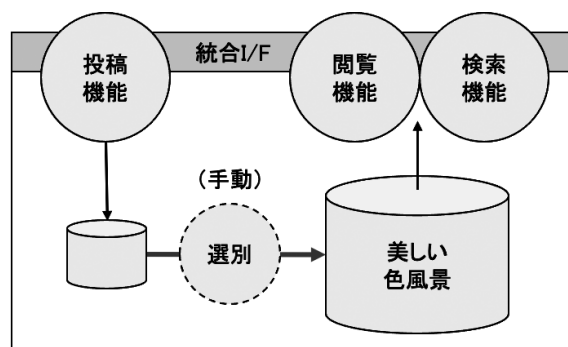


図3 サイトの3大機能



【いつ】2月 検索結果



【どこ】愛知県 検索結果



【いろ】緑 検索結果

図4 データ検索の例

日本の伝統色名が添えられている。

将来、“美しい色風景”プロジェクトが日本以外の各国で展開する場合にも、文化圏や言語によらず普遍的に定着しているとされる11の基本の色彩語⁴⁾が、色彩ラベルとして共通に使い続けられることを願う。そして、ロゴマークにも、各国を象徴するモチーフに11色が添えられてデザインされると嬉しい。

5. 今後の展開イメージ

集まった約330の“美しい色風景”データを眺めているだけでも、着眼のしかたや美しさの捉え方が多様であることがわかって興味深い。今後の本サイトの活用について、いくつか方向性を書いてみる。

第一に、「美」を工学的に分析したい。AIやデータサイエンス手法を用いて色彩分布や説明文を分析し、「美」の心理・生理計測も試みながら、色彩を道具に美しさを整理してみたい。共通する普遍美はあるのか、地域や対象別に存在する固有美をどう分けて扱うとよいか。時代によってどのように変遷しているか。人のどの属性が作用して美しさの感じ方に差異が生じるのか。急速にAIやDXが進行する中で、論理的な処理の実用化に比べ、感性・情動・感動などの情報処理の実装が取り残されがちである。真善美の調和がとれた豊かな社会を目指し、美的感性のような柔らかな情報処理の社会実装は、今後重要になると思われる。

第二に、顕彰活動に繋げたい。日本色彩学会や自治体・関係省庁などが協働し、収集したデータから「日本の美しい色風景100選(仮)」を選定する活動や、毎年テーマを決めて表彰する事業などを検討していきたい。厳選したデータを一般公開するしくみも考えたい。近年の急速な情報化やグローバル化により、国も地域も人々も画一化が進んでいる。地域毎の自然や風土、人々がもつルーツや文化などを再認識し、積極的に守り、継承していくことに繋げたい。

第三に、「美」のデータ活用である。引き続きデータ収集と並行して、サイトの機能やインタフェースを強化する。アプリ化してスマホで持ち歩けるようになれば、さらに利用可能性が拡がり、広い範囲の展開が期待できる。また、小さな子どもたちの美意識や価値観の教育、行政の担当者や専門職の人材育成などにも役立てば嬉しい。このデータベースが、モノづくり、マチづくり、ヒトづくりのためのアイデア創出や、評価指針・指標の作成に広く役立っていくことを願う。

6. まとめ

地球規模の気候変動、新型コロナウイルス、自然災害、戦争など、緊張を強いられるニュースが毎日続いている。時間的・空間的に制約された日常になって初めて、それまで目に止まらなかった身近な色風景にハッとさせられる経験や、心が落ち着くような経験をされた方も多かったのではないだろうか。こんな時代だからこそ、改めて日常や地域に五感を開き、未来に



図5 “日本の美しい色風景”プロジェクトのロゴマーク

伝えたい“美しい色風景”に目を向けて探し出し、積極的に推薦していただきたい。

謝辞

データ投稿いただいた学会員の皆様に対して感謝の意を表します。なお、全ての写真について掲載の許諾を得ている。

参考文献

- 1) Hideaki Kawabata and Semir Zeki: Neural Correlates of Beauty, Journal of Neurophysiology, 2004, 91(4), pp.1699-1705.
- 2) Ulrich Kirk, Martin Skov, Oliver J Hulme, Mark S Christensen, and Semir Zeki: Modulation of aesthetic value by semantic context: An fMRI study, NeuroImage, 2009, 44(3), pp.1125-1132.
- 3) V.S. ラマチャンドラン (山下篤子訳): 脳のなかの天使 The Tell-Tale Brain, 角川書店, 2013.
- 4) プレント・バーリン, ポール・ケイ (日高杏子訳): 基本の色彩語 - 普遍性と進化について, 法政大学出版局, 2016.
- 5) 環境省: 残したい日本の音風景100選, http://www.env.go.jp/air/life/nihon_no_oto/index.html 最終閲覧: 2022年4月24日.
- 6) 環境省: かおり風景100選, <https://www.env.go.jp/air/kaori/index.htm> 最終閲覧: 2022年4月24日.
- 7) 日本で最も美しい村連合: 日本で最も美しい村, <https://utsukushii-mura.jp/>, 最終閲覧: 2022年4月24日.
- 8) The associations of the most beautiful villages of the world: The most beautiful villages of the world, <https://lpbvt.org/> 最終閲覧: 2022年4月24日.